

障害者のための防災・支援マニュアル



香美町障害者地域自立支援協議会

(平成 25 年 3 月作成 令和 3 年 3 月改訂)

マニュアルの内容

マニュアルは、障害別に次の項目を記載しています。

障害のある方が

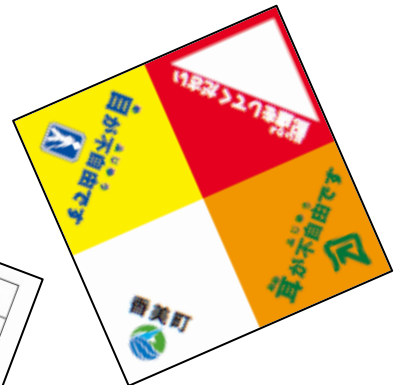
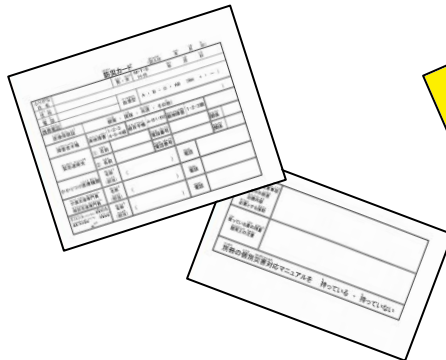
- ①普段から気をつけておくこと
- ②緊急時に気をつけること

そして、障害のある方を支援する時に

- ①大切なこと
- ②緊急時の支援
- ③障害について理解してほしいこと

ここが重要

『ヘルプマーク』『ヘルプカード』『防災カード』『防災スカーフ』を
所持している方がおられます。



また、『災害対応マニュアル』『サポートファイル』『つなぐノート』
をお持ちの方がいます。

個々の支援方法がわかるものになっていますので、参考にしてください。



↑ 自分自身に合った対策も必要です…

目 次

1. 視覚障害	
視覚障害のある方へ・・・・・・・・・・	1
視覚障害のある方を支援する時・・・・・・・・	2
2. 聴覚障害	
聴覚障害のある方へ・・・・・・・・・・	5
聴覚障害のある方を支援する時・・・・・・・・	6
3. 肢体障害	
肢体障害のある方へ・・・・・・・・・・	9
肢体障害のある方を支援する時・・・・・・・・	10
4. 知的障害	
知的障害のある方へ・・・・・・・・・・	13
知的障害のある方を支援する時・・・・・・・・	15
5. 発達障害	
発達障害のある方へ・・・・・・・・・・	17
発達障害のある方を支援する時・・・・・・・・	18
6. 精神障害	
精神障害のある方へ・・・・・・・・・・	20
精神障害のある方を支援する時・・・・・・・・	21
7. 内部障害・難病患者	
内部障害のある方・難病の方へ・・・・・・・・	23
内部障害のある方・難病の方を支援する時・・	24
8. 防災情報・・・・・・・・・・	26
■ 準備しておくもののリスト・・・・・・・・	29

作成　：香美町障害者地域自立支援協議会

連絡先：〒669-6592

兵庫県美方郡香美町香住区香住870-1

電話　　0796-36-1964

FAX　　0796-36-3809

e-mail　info@town.mikata-kami.lg.jp



障害者のための防災・支援マニュアル

1. 視覚障害

視覚障害のある方へ （マニュアルの音声CDあります）

① 普段から気をつけておくこと

～白杖は安全確保の重要な道具～

●白杖と点字版の置き場所は決めておく

白杖や点字版は探さなくてもいつでもすぐに持ち出せるようにしておきます。

●外出時には白杖を持つ

白杖は支援のサインにもなります。もしもの時に援助を求めやすくなります。合わせて防災カードも持っておくと安心です。



②緊急時に気をつけること

～一人で行動することは控え、できる限り援助を待つ～

●あわてない・すぐに動かない

地震の揺れが収まって、すぐに動いてはいけません。家具が倒れていたり、ガラスの破片が落ちていたりするかもしれません。

ただし、建物の倒壊や津波の危険が迫っている場合は注意をしながら避難をします。



●慣れた家でも慎重に

どうしても移動しなければならない時、ガラスの破片などでケガをしないように、厚手の靴下やスリッパをはき、屋内でも白杖を使うようにします。

●周りの人に援助を求める

地震や風水害の時に、屋外に出る場合は、切れた電線に触れないように気をつけます。倒れた電柱や塀にも注意が必要です。

→周りの人に援助をしてもらうようにします。



●火事の時

火事の際は119番通報し、周りの人に知らせて初期消火に努めます。無理な時はすぐに避難をします。

●風水害の時

台風や大雨の時は、テレビやラジオの情報に注意します。危険を感じたら、家族や周りの人と早めに避難をします。

●行政放送は注意をして聞く

行政放送（避難準備情報や避難勧告）は聞き逃さないようにします。もしものこともあるので、周囲の人にも教えてもらうことができるようお願いしておきます。

視覚障害のある方を支援する時

①大切なこと

～本人の希望に合った介助をします～

●本人に合った誘導をする

本人の視力や身体の状態を聞き、状態に合った誘導をします。

（立ち位置）

本人は安全な側に立っていただき、肘や肩のあたりを持ってもらい半歩前を歩きます。

（移動の速さ）

歩く速さは本人に合わせてます。



(階段では)

階段は手前で止まり、「上り」「下り」を伝えます。階段が終わったらもう一度止まり、階段が終わったことを伝えます。

(盲導犬)

引っ張ったり、さわったりしません。

(本人から離れる時・別れる時)

これからの状況を説明してから離れる（別れる）ようにします。



②緊急時の支援

～こまやかな状況説明と安全な移動を～

●詳しい情報を伝えて不安を取り除く

視覚障害者は周囲の状況を把握しにくいので不安です。災害時においては、障害物の状況及び回避の方法を具体的に伝え、不安を取り除きながら誘導します。

●歩き慣れた道を通る

本人が歩き慣れた道があれば、その道を通ります。
(歩き慣れていないところであれば、状況をこまめに説明しながら誘導します)

③視覚障害について理解してほしいこと

～適切な支援をするために～

●個人差

視覚障害といっても見え方には個人差があります。そのため、意思の伝わり方にもスピードや内容の伝わり具合に差が出てきます。



（意思の伝達方法）

見え方にもよりますが、身振り手振りが通じにくいいため、言葉に頼る場合が多いです。伝達手段には、点字、大活字、録音、パソコンなどがあります。



●困難なこと

日々の生活習慣や身支度、家事などで不自由を強いられる場面が多くあります。情報の確認、識別、判断に困難が生じやすいです。

（少しの変化が事故につながる）

視覚による周囲の状況把握が難しいため、少しの変化や障害物が事故につながることもあります。いつもの通りなれた道も、災害時には危険な場所になってしまいます。

●緊急時の影響

急激な状況変化を察知しにくいので、周りの人が災害の規模や様子を言葉で知らせる必要があります。

避難誘導の時は、進行方向だけでなく足元や頭上の障害物についても一つひとつ細かく教え、本人が周囲の状況を頭の中にイメージできるようにすることが大切です。



2. 聴覚障害

聴覚障害のある方へ

- ① 普段から気をつけておくこと
～どこでも情報がわかるように～

●文字情報の活用

文字放送付き携帯ラジオ・携帯テレビを持ち歩くとどこにいても情報がわかります。

●補聴器の置き場所

いつでも取り出せる安全な場所に電池の予備と一緒に置いておきます。



●会話カード集の作成

災害時に知らない人と話をするために、会話カード集を作っておきます。

●近所の人からの情報（情報をたくさん得るために）

普段から近所の人に「緊急時にはメモで情報を伝えてほしい」ということをお願いしておきます。

- いつでも、どこでも筆談ができるように
メモ用紙と筆記用具を携帯します。



②緊急時に気をつけること

～隣近所の人との双方向の情報伝達が大事～

●行政放送に注意

行政放送（避難準備情報や避難勧告）の内容は、隣近所の人にメモで知らせてもらいます。

●避難する場合

情報を得やすくするように、家族や隣近所の人と一緒に避難します。

●火事の時

火事の際はメモで周りの人に知らせて 119 番通報をしてもらい、初期消火に努めます。無理な時はすぐに避難をします。

聴覚障害のある方を支援する時

① 大切なこと

～本人の希望に合った伝達方法を活用します～

●伝達方法

伝達方法は、本人の希望を聞いて行います。

（読話）

話し手の唇の形や動きを読み取って、言葉を理解する方法です。

（口話）

残っている聴力を活用しながら読話をし、発音によって伝達する方法です。

（手話）

手の形や動き、顔や体全体を使って伝達を行う方法です。全ての聴覚障害者が手話ができるわけではありません。

（筆談）

正確な情報伝達ができますが、文章表現によってはわかりにくいことがあります。

「丁寧な字」で「簡潔なわかりやすい文章」を書くようにします。



●情報伝達するときには

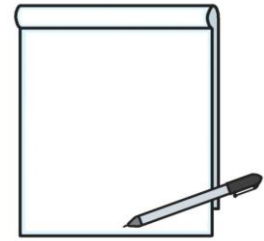
どのような方法でも、まずは合図をして、本人と向き合い、身振り手振りを意識して話をします。

②緊急時の支援

～緊急情報の伝達と本人の所在の確認を～

●緊急情報はメモで伝達

サイレンや行政放送は伝わらない可能性があります。
緊急の情報は、メモで知らせます。



●本人の所在確認

緊急を知らせたいが、夜間の睡眠中など本人は気がつかないことも考えられます。連絡がとれない時の手段など、本人と話し合っておくことも重要です。

(例)

夜、眠っている時は呼ばれてもわからないので、戸（窓）を壊して家の中に入って知らせる。

③聴覚障害について知っておいてほしいこと

～適切な支援をするために～

●個人差

聴覚障害のある人誰もが手話や筆談がうまくできる
とは限りません。

伝達の具合については、障害の程度や体調、その時の
環境によって異なります。

相手の顔を見ながら、身振り手振りを交えてわかり
やすい言葉や表現を使うことがポイントです。



●困難なこと

音で周囲の状況を判断できないため、情報や状況の把握が困難です。
さらには細かい語意が伝わりにくく時間がかかることもあります。

また、一度に複数の人が話をするとうわかりづらいので配慮が必要
です。

(伝わりにくい言葉・表現)

○省略した言葉

○難しい例え＝「あなたは私の太陽だ」

○助詞＝細かい意味合い→「私はできる」「私ができる」

○あいまいな表現＝「～かもしれない」

○語尾をぼかした表現

(不便や危険な場面)

「話しかけられても適切な行動がとれない」「車のクラクションが聞こえない」など不便なことや危険なことがあります。



●緊急時の影響

聴覚障害者は音による状況把握が難しいため、事故に巻き込まれる可能性が高まります。周りの人がこのことを理解した上で、本人が状況を正しく把握しているか確認する必要があります。また、電話やドアのベル、声かけなどの音による伝達が困難なので、緊急時に備え、連絡の方法を話し合っておく必要があります。



3. 肢体障害

肢体障害のある方へ

① 普段から気をつけておくこと

～万が一に備えてあらかじめ十分な準備をしておく～

●安全に避難できる道を確認

あわてないために、日頃から安全に避難できそうな道を確認しておきます。支援がないと動けなくなった場合の連絡先を決めておくとう安心です。

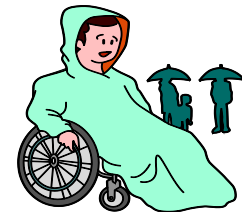


●杖や車いすは大切に

普段は、すぐに使えるところに置いておきます。使わない時は、災害で壊れたりしないように保管に注意します。

②緊急時に気をつけること

～隣近所の人とのつながりが大切～



●急な場合の避難先

地震が発生した時、頭を保護するため、まずは近くの丈夫な建物の中に避難します。

●広い場所も避難先になる

地震の場合、余震が続くことも考えられます。広い場所も急な場合の避難先になります。



●安全な場所に避難したら

居場所がとりあえず安全と思われるようであれば、あわてないで周りの人に援助を求めるようにします。
車いすを使っている人はブレーキをかけることを忘れないようにします。

●火事の時

火事の場合は、ただちに周りの人に知らせ、119番通報と初期消火を協力して行います。

●早めの避難

台風や大雨の時は、テレビやラジオ、行政放送の情報に注意し、危険を感じるようであれば、家族や周りの人と一緒に避難します。

肢体障害のある方を支援する時

① 大切なこと

～本人の希望を聞きながら～

●杖などを使っている人

本人がゆっくり歩くことができるように、段差やでこぼこの少ないところを選んで誘導します。

歩行しにくそうな人に対しては、支援の方法を聞き、腕を持つなどの介助を行います。



●車いすを使っている人（介助の方法）

急な発進や停止、方向転換は事故のもとです。必ず声をかけてから介助をします。

（坂道を上る）

平地と同じように前進します。

（坂道を下る）

後ろ向きで後進します。緩やかな場合は前進でもかまいません。

（段差を上る）

- i ステッピングバーを片足で踏んで、左右のハンドグリップを押し下げて、前輪を上段に乗せます。
- ii 後輪を押し上げます。



（段差を下る）

- i 後輪を下の段に下ろします。
- ii 前輪を上げて後ろに引きます。
- iii 前輪をそっと下ろします。

（階段の上り下り）

3人以上の介助で行います。車いすを使っている人に恐怖感を与えないように、階段の下りが見えないように配慮をします。

電動車いすは重いので、車いすと本人は別々に移動します。

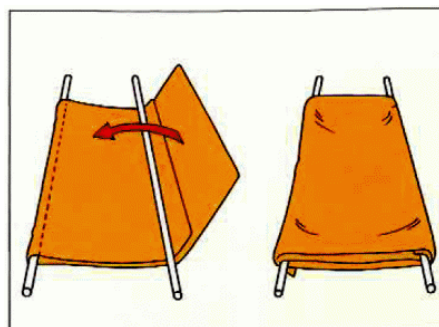


②緊急時の支援

～多くの人が協力をして安全で速やかな移動を～

●杖や車いすが壊れた場合

本人の了承を得て、車いすは置いて毛布や担架を利用して移動します。時には背負うこともあります。



●ベルトの利用

車いすに乗って身体のバランスがとりにくい人は、姿勢を固定するベルトを活用します。ベルトがない場合は、周りの人が体を支えながら移動します。



③肢体障害について知っておいてほしいこと ～適切な支援をするために～

●個人差

神経系の障害、骨や関節の障害、脳性まひや脊椎損傷、脳出血や関節リウマチなど原因や症状はさまざまで、個人差は大きいです。

●困難なこと

障害の程度にもよりますが、食事や排せつ、入浴、移動などの日常生活動作が困難な人がいます。

言語障害のため、日常会話が思いどおりにならない人もいます。

自宅内で福祉用具や介助により過ごすことはできても、外出については道路形状や移動手段がないため、思うようにできない人もいます。



●緊急時の影響

災害時には建物の倒壊など障害物や道路状況の悪化により、車いすが使えないことがあります。車いすを利用している人だけに限らず移動が困難な人は、緊急避難が必要になった場合に、遅れてしまう恐れがあります。

電動の福祉用具を利用している場合は身動きがとれないことも想定されます。

避難誘導の際には、本人の希望や状態を確かめた上で介助をします。「左腕を抱えたらいいですか」「二人で抱えて移動してもよろしいか」など具体的な介助方法聞くと答えやすいです。



4. 知的障害

知的障害のある方へ

① 普段から気をつけておくこと

～あわてないように普段から練習～

●学校や職場からの行き帰り

「学校や職場からの行き帰りに

地震にあったらどうすればいいのか」

決まりを覚えてもらい練習してお

くと安心です。



●近所の人に自分のことを知ってもらう

自分のことを近所の人に知ってもらっていると「もしもの時」も安心

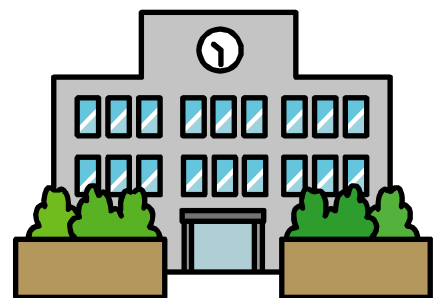
です。日頃のつながりが大切です。

●避難する場所を知っておく

「家にいる時」「学校にいる時」「職場に

いる時」の避難場所を覚えてもらっておき
ます。

避難場所



●防災カードを持っておく・防災カードを使って助けてもらう

困った時は助けてもらうために、防災カードを持つようにします。

②緊急時に気をつけること

～自分がいることを知らせる～

●地震の時

地震の時は、テーブルや机の下に隠れます。地震がおさまったら、「ここにいます」といってみんなに知らせます。



●火事の時

火事が起きた時は、すぐに外に逃げて近くの人に知らせます。

●台風や大雨の時

台風や大雨の時は、家の人や知っている人と一緒にいるようにします。

●避難する時

避難する時も、家の人や知っている人と一緒に避難します。



知的障害のある方を支援する時

①大切なこと

～落ち着くことが大切。支援する人も落ち着いて～

●家族が近くにいないか

知的障害のある人が一人で困っているところを見つけた場合は、まず近くに家族がいないか確認します。



●声をかける

優しく声をかけ、名前や連絡先を聞きます。言えない場合には、書いたものを持ってないか 聞いたり探したりします。

不安な気持ちは行動に表れます。「危ない」「怖い」というような言葉は使わないようにします。



②緊急時の支援

～安心できるような言葉をかけながら行動する～

●避難所に行く

本人が落ち着くように、優しく言葉をかけながら避難所に行きます。避難所に着いたら、本人の名前と連絡先を避難所の責任者に知らせます。

●周りの人と協力して避難する

不安や恐怖で動けなくなる人もいます。周りの人の協力を得て、一緒に避難します。



③知的障害について知っておいてほしいこと

～適切な支援をするために～

●個人差

日常生活における理解度や自立度に個人差がありますが、環境の差もあり、生活環境によって本人の状態は大きく異なってきます。

●困難なこと

(認知と適応力)

物事を上手く理解できないことがあり、突発的なことに対処することが苦手です。

(判断力)

「どうしたらよいのか」判断をすることが難しいこともあります。

(学習)

すぐには覚えられないこともあり、気長に対応することが必要な場合があります。

(こだわり)

同じ物や同じ行動パターンにこだわって、変更することが困難な人もいます。自閉的傾向のある人に多く見られる特徴です。

(感性)

鋭い感性と繊細な心を持っている人がたくさんいますが、それを表現できないため苦しむことがあります。

(意思の伝達)

言葉を話すことができて、上手に発声できなかったり、表現できなかったりするなど、自分の思っていることを伝えきれないことがあります。

●緊急時の影響

「困っていることを周りの人に伝えられない」
「急激な環境の変化についていけずにパニックになる」このような時には、まず不安を取り除くように優しい態度で接します。

声をかける時は、わかりやすい言葉を使うように心がける必要があります。



5. 発達障害

発達障害のある方へ

①普段から気をつけておくこと

- 連絡を取る方法（電話番号・メールアドレスなど）を知っておきましょう。

家族	⇒
職場(学校)	⇒
支援者	⇒



- 防災カード、ヘルプカード、サポートブック（お持ちの方）など、自分のことを理解してもらうためのカードなどに必要事項を記入して準備しましょう。

- 非常持ち出し品を準備しましょう。
～準備しておくものリストを参考に～

- 避難所の場所、経路を確認しましょう。

②緊急時に気をつけること



- まずは落ち着いて、正しい情報を得ましょう。

- 例・家族や支援者から
- ・防災無線から
- ・テレビ（ラジオ）の速報から
- ・メール（スマホ、ネット）の情報から など

- 香美町（お住まいの区）の避難勧告、避難指示等の指示に従い、避難所に避難しましょう。

※どうしてもよくわからない場合は、ヘルプカードなどを見せて
近くにいる人（家族や支援者など）に支援や指示をしてもらいましょう。



- 安全な場所に避難出来たら、心を落ち着かせるものなどを使用して過ごしましょう。

発達障害のある方を支援する時

①大切なこと

～対応に協力してくれる人が周囲にいるか確認しましょう～

- かかわり方のコツを確認

発達障害のある人は、見た目には障害があるようには見えないことがあります。

対応にはコツが必要になります。家族など本人の状態をよくわかっている人にかかわり方を確認します。

- 不安を取り除く

「困っていることを周りの人に伝えられない」「状況が把握出来ずパニックになる」「見通しがつかず、動けない」など不安な時は穏やかな態度で接し、不安を取り除き、落ち着けるようにします。



②緊急時の支援

- 避難所に行く

危険から身を守るために避難所に行くよう、指示を具体的にゆっくり伝えてください。

正しい情報を伝え落ち着いて行動できるように付き添ってください。

- ケガや病気が無いか確認します。

痛みに鈍感だったり、自分の体の状態について伝えられない人がいます。ケガをしていないかよく見てください。

③発達障害について知っておいて欲しいこと

●変化が苦手

してほしいことを具体的（視覚的）に、穏やかな声で指示します。

スケジュールや場所の変更を具体的（視覚的）に伝えます。



●感覚刺激に過敏

～居場所に配慮します～

大勢の人がいる環境が苦手なので、部屋の隅や別室、パーテーションを使って個別空間をつくります。

●話し言葉を聞き取るのが苦手

伝えたいことは絵や文字を使って見える形で説明します。

●言葉で思いを表出することが苦手

困っている、手伝って欲しいことが上手く伝えられないことがあります。

困難なことはさりげなく手伝ってください。

●見通しの立たないことが不安

当面の予定や空いた時間を過ごすための活動の提示が必要です。

●危険な行為がわからない

行ってはいけない所や触ってはいけない物がハッキリわかるように教えてください。

他に興味のあることや手伝いに誘ってみましょう。

はったつしょうがい 発達障害 があります

【まわりの方へ】

疲れやすいです。ご配慮頂けると助かります。
少し変わった言動があります。
あたたかく見守って下さい。

【医療・福祉関係者さまへ】

ヘルプカード・薬・お薬手帳・障害者手帳所持。
詳細はお薬手帳内のカード等をご覧下さい。
パニック(固まる・泣く...)のときは助けて下さい。
基本的に身辺自立しています。



6. 精神障害

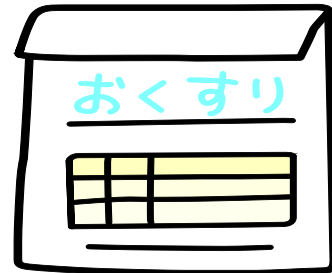
精神障害のある方へ

① 普段から気をつけておくこと

～万が一に備えて あわてないように～

●薬はいつも持っておく

外出や急いで避難する時に、日頃から飲んでいる薬を忘れないようにするため、普段から持っておくようにすると安心です。



●防災カードも持っておく

災害が起きた時に、助けがいることを書いた防災カードを持っていると安心です。薬と一緒に持っておきます。

●相談できる人・所

日頃から何でも相談できる人（所）を持つことが大事です。もし、災害が起きた時に誰に相談すればよいのかメモをしておきます。



●もしも災害が起きた時を考えて

かかりつけの医者には、もし災害が起きた時の治療や薬はどうしたらよいのか相談して良い方法を教えてもらっておきます。

また、日頃から地震や水害が起きた時に避難や身を守る練習や心構えをしておくとう安心です。

②緊急時に気をつけること

～まずは落ち着く～

●混乱しそうな時

どうしたらよいのかわからない時は、大きく深呼吸をして気持ちを落ち着かせてから周りの人に助けを求めます。



●知っている人と一緒にいる

地震や火事が起きた時、家族がいない場合は、近所の知っている人と一緒にいると安心です。

精神障害のある方を支援する時

① 大切なこと

～不安をやわらげる～

●適切なケアができる人を確保

精神障害のある人が混乱しているようであれば、本人に聞くか、または障害者手帳や防災カードなどで連絡先（医療機関や相談支援事業所を含む）に連絡を取り、少しでも早くケアができるようにします。



②緊急時の支援

～動けない人もいる～

●一緒に避難する時

不安をやわらげるために、優しく声をかけ、恐怖感を和らげます。説明をする時は、わかりやすい言葉で具体的に話します。

●動けないこともある

薬の副作用（だるい・頭がぼーっとする）により動くことができない人もいます。周りの人の協力を得て避難をします。



③精神障害について知っておいてほしいこと

～適切な支援をするために～

●個人差

さまざまな原因によって生じた症状が、対人関係や行動に表れます。原因も症状も異なり、生活全般に援助が必要な人もいれば、一人暮らしや会社勤めが可能な人もいます。

●困難なこと

対人関係や仕事など周囲との関係の中で精神的に追いつめられやすく、状況や環境の変化に対応できず混乱することがあります。不安、不眠、無気力や集中力の低下などの症状を起こします。

薬の副作用で脱力感を持つこともあります。



●緊急時の影響

災害により周囲の状況に変化が起こると、不安感、孤立感、恐怖感により混乱することがあります。本人が落ち着くように優しく接して避難誘導し、適切なケアができる状態に持っていくことが大切です。



7. 内部障害・難病患者

内部障害のある方・難病の方へ

①普段から気をつけておくこと

～万が一に備えて あわてないように～

●かかりつけ医療機関・薬のメモ

非常時持出品の中にかかりつけ医の連絡先、薬や装具の内容を記したものをに入れておきます。携帯をしていると安心度は増します。

(例)・薬＝名前

・ストマ用装具＝メーカー名、品名、
サイズ



●非常時持出品には装具を忘れずに

日頃使用している装具を忘れないようにします。

●予備の酸素ボンベ

酸素を使用している人は、日頃から予備の酸素ボンベを準備し、残量を確認しておきます。

●停電や故障に備えて

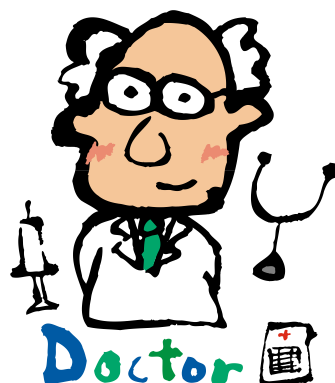
人工呼吸器など生命維持装置が停電や破損で正常に動かなくなったことを想定し、手動の呼吸器を準備しておくで安心です。予備の呼吸器がすぐに用意できるように、現在使用中の呼吸器のメーカー名、機種番号をメモしておきます。(たん吸引器についても同様です)

●災害時の医療機関との連絡方法

かかりつけの医療機関と相談し、災害時の連絡方法や移動方法を確認しておきます。

●医療機関のリスト

災害時に、かかりつけの医療機関に連絡が取れないことも考えられます。緊急的に支援を得られる医療機関のリストをつくっておくと安心です。

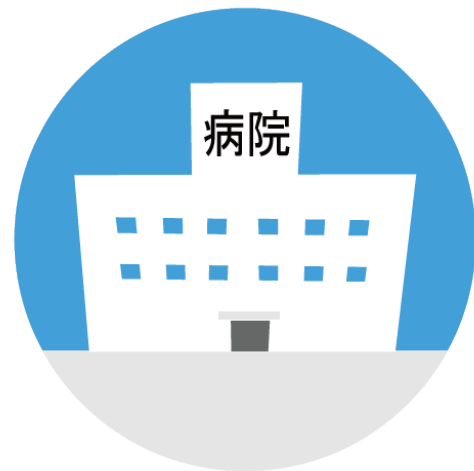


② 緊急時に気をつけること

～できるだけ早く医療機関につながる～

●医療機関とつながる

難病の人は、専門的な治療が必要とされることがあります。災害時にはできるだけ早く医師と連絡をとることが必要です。



●避難した時

生命を維持するのに必要な薬や医療行為、装具などがある場合は、確実に公的機関に伝えるようにします。

また、内部障害は外見ではわからないので、早めに本人の体の状況や生活上の注意事項を周りの人に伝えておきます。

内部障害のある方・難病の方を支援する時

① 大切なこと

～本人および介護者とのつながり～

●日頃からのつながり

日々のつながりを大切にします。緊急時の支援につながります。

②緊急時の支援

～速やかな対応～



●移動には時間と人手が必要

医療機器を使用している場合は、移動に時間も人手も必要になります。周りの人の協力を得て移動するようにします。

●病院への避難

医療機関と連携し、病状によっては病院への移動を行います。

●症状が急変したら

ストレスや環境変化により病状が悪化する場合があります。
本人の症状の急変や、体調の不調を訴える場合は、
すぐに医療機関に連絡をします。
介護者が付き添っている時は、その指示に従います。



③内部障害・難病について知っておいてほしいこと ～適切な支援をするために～

●個人差

内部障害の場合は、外見ではわからないため、知らない人からは誤解を受けることがあります。

●困難なこと

自力歩行や素早い避難行動が困難な場合があります。医薬品の携帯や、人工呼吸器などの医療的援助が必要なこともあります。

●緊急時の影響

災害により通院が困難になると命にかかわることもあります。
環境によって病状が悪化する場合があります。医療機関とつながっておくことが重要です。

みんなで作ろう 安心・安全な香美町



8. 防災情報

ひょうご防災ネット

兵庫県および兵庫県内の市町から「避難に関する情報」などの緊急情報や、地震、津波、気象情報などの防災に関する様々な情報を利用者の方々に提供するサービスです。

●防災ネット香美

緊急情報などを発信するための香美町の防災版ホームページです。

すべての携帯電話でメールアドレス登録でき、メールアドレスを登録しておく、ホームページが更新されるたびにメールでお知らせします。地震や台風などで町内に災害が起きる恐れがあるときや災害が発生したときに、避難勧告などの緊急情報が携帯電話のメールへ自動配信されますので、いち早く、確実に最新情報を得ることができます。

●聴覚障害者災害時等緊急情報発信システム

兵庫県立聴覚障害者情報センターより情報が配信されます。香美町の防災ネットも必ず一緒に登録してください。地域からの緊急メール・お知らせメールとは内容が違います。緊急気象情報のみ、どちらからも同じ内容が届きます。

(例) 緊急メール…「〇〇避難所に手話通訳を設置しました。」

(例) お知らせメール…「情報センター祭りが〇月〇日に開かれます。」

※緊急メールでは、聴覚障害者が元の生活に戻れるための情報が送られます。

また、緊急時に備えて、日常的にメール受診をしていただけるよう、防災以外の様々な情報が配信されます。



防災スカーフ・防災カード

避難行動時や避難所で過ごす際に、周囲に障害があることを知らせ支援や配慮を受けやすくするためのものです。1人に1枚無料で配布します。受付窓口は役場福祉課と各地域局健康福祉係です。

●防災スカーフ

外見からは障害のあることが分かりづらく、自ら支援を求めることが難しい方が、災害時に身に着けることで周囲に障害があることを知らせるためのものです。

身体障害者手帳（視覚・聴覚・音声言語障害に限る）、療育手帳、精神保健福祉手帳をお持ちの方が対象です。



●防災カード

災害発生時、障害のある人がうまくコミュニケーションがとれず、必要な配慮が受けられない場合があります。こういったことを防ぐために防災カードを配布しています。避難時に持ち歩けるように、濡れても破れにくい特殊な素材を使用しています。

障害者手帳又は自立支援医療（精神通院）受給者証をお持ちの方が対象です。

防災カード		記入日		年	月	日
※エンピツで記入し、変更がある時は書きかえましょう						
ふりがな	氏名		姓	名	性別	年齢
住所	香美町		男・女	大正	昭和	平成
電話			血液型	A・B・O・AB		
携帯電話			(RH + ・ -)			
医療保険証	健康保険・国民健康保険・共済・その他()					
障害名			手帳の有無	あり 有 ・ なし 無		
緊急連絡先	① 名前		電話番号	関係		
	② 名前		電話番号	関係		
かかりつけ医療機関	名称	診療科目	先生	電話番号		

視覚障害のある方へ

●防災行政無線

電話により聞き直すことができます。

専用電話番号：０１２０－６３－１２１０。

聴覚障害のある方へ

●防災行政無線用文字表示機器の無償貸与

聴覚障害４級以上の手帳所持者を対象に、気象警報等の緊急情報を文字で表示できる機械を無償で貸与しています。詳しくは香美町役場防災安全課へお問い合わせください。

聴覚障害、音声・言語障害のある方へ

●緊急時の通信手段

○兵庫県警

聴覚・言語が不自由な方のための緊急通信手段として、「１１０番アプリ」「ファックス１１０番」があります。

○美方広域消防

音声による１１９番通報が困難な方の通報手段として「FAX１１９」「NET１１９緊急通報システム」があります。詳しくは美方広域消防本部通信係へお問い合わせください。

【FAX１１９】

局番なしの１１９に送信すると、美方広域消防本部が受信します。専用の通報用紙があり、美方広域消防のホームページに掲載しています。

【NET１１９緊急通報システム】

スマートフォン・携帯電話のインターネット接続機能を利用して、簡単に１１９番通報することが出来ます。事前の登録が必要です。

■^{じゅんび}準備しておくもののリスト

【^{ようはいりよしや}要配慮者^{うけいれる}を受け入れる^{べんり}ときに便利なもの】

- ☐ パーテーションになる^{ぬの}布、ダンボール
- ☐ ^{かみ}紙おむつ
- ☐ トイレ^{びひん}備品（ポータブルトイレ、^{かんいせっちしきようしきべんざ}簡易設置式洋式便座、^{かみ}紙など）
- ☐ ^{はつでんき}発電機
- ☐ カセットコンロ・ガス
- ☐ ラップ（^{しょっき}食器に敷く、^{からだ}体に巻き^{さむさだいさく}寒さ対策、^{きず}傷の止血、^{しけつ}靴に巻き^{ながくつが}長靴代わり）など
- ☐ ウェットティッシュ（^{てあし・たい・かお}手足・体・顔などをふく）
- ☐ ^{もうふ}毛布
- ☐ ^{かんい}簡易スロープ
- ☐ ^{くすり}薬（^{おくすりてちょう}お薬手帳、^{しょほうせん}処方箋のコピー）
- ☐ ^{ひじょうしょく}非常食 ・ ^{いんりようすい}飲料水（^{いんしょく}飲食できるもの）
- ☐ ^{ちいき}地域のハザードマップ
- ☐ ヘルプカード

【^{はったつしょう}発達障がい者^{しや}が^{じゅんび}準備しておく^{とよいもの}とよいもの】

- ☐ コンパクトで^{けいりよう}軽量なテント（^{こしつ}個室にできる）
- ☐ ^{ちようじかん}長時間^{すこす}過ごすための^{あそびどうぐ}遊び道具（^{おきにいりもの}お気に入りの物など）
- ☐ ^{こころ}心を^{おちつかせる}落ち着かせるもの（^{おきにいり}お気に入りのぬいぐるみなど）
- ☐ イヤーマフ・^{みみせん}耳栓・ヘッドフォン・アイマスクなど



それ以外に、皆さまの必要な物品をお書きください

☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐